

001■1947年10月20日—1948年6月30日 昭和22~23 27~28歳

1947.11.6 昨日は丸山さんは第二紀会展(阪急展)に額縁を持って行ったさうだ。僕は遺憾ながら二十五号の額縁がないので阪急展は諦めなければならない。僕は働いて食はなければならないのだ。然し僕の生命は絵を描く事によって保たれるのだ。ノートルダムのセムシ(映画の……)の様にひとから馬鹿にされようと僕は絵を描くことによって自分で満足出来れば何ものもいらない。然し僕はもっともっとひとから軽蔑され虐待をうけたら僕は軽蔑され虐待される事によって益々絵を描くことに愛着をもつことであろう。僕は現在のところ、どんなことがあろうと死ぬと云うことは到底考へられない。盗人になっても絵を描く。僕が絵を描くことを事珍しいさうにみてるのが僕の一番気に入らぬのだ。僕は自分を世界的芸術家として生きていくとみとめているがひとは僕を一労働者にみてることに僕は満足しよう。

上前日記 1947-2020 上前智祐と具体(2019年12月15日発行、中塚宏行編)より